

212) あの人からの季節の便り

彼がいたときあの人からの	手紙が来ると迷惑だった
愛した人に捨てられたとき	初めて知ったほんとうの愛
今気づいても遅すぎるけど	いつも遠くで見つめてくれた
ひとり 孤独になって読み返すとき	その優しさに涙がにじむ
四季折々の移り変わりや	小さな生命のたいせつなこと
綺麗な詩や写真をそえて	メールに書いて送ってくれた
それぞれの道歩き続けて	やがて3年たとうとしてる
もう今ごろは他の女性と	どこかの街にいるのでしょうか
いまさらわたし逢いたいなんて	言えないけれど心引かれる
過去を背負った女と知って	結婚しようと言ったあの人
彼がいたから断ったけど	そんな彼とも今は別れて
たったひとりで眠れない夜	あの人のこと思い出します
わがままだったわたしのことを	いつも優しく包んでくれた
彼のいること知っていながら	わたしのことを愛してくれた
あの人からの季節の便り	生涯ずっと忘れはしない
若かった日の思い出として	心の奥にしまっておくわ
あの人からの心の便り	今のわたしにたいせつなもの
どんなところで生きるにしても	心の隅に残しておくわ